

国立大学附属中学校保健体育科における研究の変遷  
(その5)

向山 貴仁\*

**A Historical Study of Physical Education Research Projects conducted by  
the Junior High Schools Attached to National Universities in Japan**  
(5)

Takahito MUKOYAMA\*

**Abstract**

Numerous research projects have been conducted and completed by the teachers in the junior high schools attached to national universities in Japan since their inauguration. The results obtained through these projects attempts were accumulated in the research reports and or bulletins published by the schools.

The purpose of this study was to investigate and analyze the materials collected by the Research Institute on Educational Process and Course of Study of Attached Junior High Schools of Tsukuba University.

The methods of research were as follows:

1. General analysis.
2. Classification according to activity type.
3. Classification by grade and sex.
4. Classification according to the type of method for the research.

Upon investigation and analysis of the materials, the following results were obtained: Certain found on the theme of these studies. Especially after 1977 the number of studies tended increase tendencies were.

The influence of the contents and the points of emphasis in revised Course of Studies was recognized in the contents of conducted researches.

**KEY WORDS :** *the attached junior high schools to national universities ,  
physical education research projects*

**1. はじめに**

日本における国立大学附属中学校（以下、附属中学校）は、明治における近代学校制度の成立以来、100有余年<sup>1)</sup>、新学制による中学校発足以降49年を経過した。

附属中学校は、「各時代における中等普通教育の実施」,「附属する国立大学、学部の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証」,「学生の教育実習」を固有の機能としている機関である<sup>2)</sup>。

実践・研究の結果として膨大な知識の蓄積、活

\*鹿屋体育大学 National Institute of Fitness and Sports in Kanoya, Kagoshima, Japan

動がおこなわれ、その成果は研究紀要を中心とする資料にみいだすことができる。これら発足以来の、貴重な研究に関し「何が」、「どのように」おこなわれたかの変遷や動向、研究内容を明らかにし今後を展望することは学校体育研究上、意義があると考ええる。

中学校保健体育科を対象とした歴史的研究は少なく、先行研究の調査結果からも日本体育学会における第1回大会から第46回大会までの発表内容並びに、各附属中学校の研究紀要においても、本研究と同様の国立大学附属中学校保健体育科を対象とした歴史的内容の研究は確認できなかった。

本研究は6年間にわたる継続研究の一つとして位置づけられ、既に数度の口頭<sup>3)</sup>並びに論文<sup>4) 5) 6) 7)</sup>による発表、報告をおこなった。これまでの成果として、保健体育を取り巻く社会背景、教育環境の変化に起因し、年代を経るに従い研究の内容や運動種目の多様化、量的拡大の傾向が認められた。また、研究内容の変容には学習指導要領の改訂に伴う指導理念の影響との関連性が示唆された。しかし、研究実施上の都合から5年毎に資料の調査、分類、分析及び報告をおこなったため、他の資料との比較にまでは至らなかった。

今回は、1947～88年まで42年間の各附属中学校保健体育科における研究内容と戦後の保健体育科の在り方に影響を与えた体育事情や法令、なかでも学習指導要領の改訂に伴う内容や強調の変化との比較・検討を試みた。

## 2. 研究目的

本研究の目的は、国立大学附属中学校保健体育科における研究の調査・分類・分析をおこない、研究の実態を把握するとともに今後の在り方を探ることであった。

## 3. 研究方法

### (1) 研究対象

本研究は、筑波大学附属中学校教育課程研究所資料室に収蔵されている、国立大学附属中学校78校の研究紀要を中心とする資料における保健体育科の研究を対象としておこなった。

### (2) 対象年代並びに、時代区分

研究対象としての年代は、1947～88年に至る42年間とした。時代区分は戦後の学校体育指導要綱、学習指導要領の発行、改訂時期とし次の6期に分けた。但し、1989年(平成元年)以降は資料未整理のため今回は除外した。第1期:1947～50年(昭和22～25) 第2期:1951～57年(昭和26～32) 第3期:1958～68年(昭和33～43) 第4期:1969～76年(昭和44～51) 第5期:1977～88年(昭和52～63) 第6期:1989～現在(平成元～)

### (3) 研究内容の分類の視点

本研究における研究内容の分類は次の4つの領域を基本とし、詳細は表-3のとおりであった。

I. 一般的分類(学習、学習指導、授業、授業構造等の保健体育科教育全般の視点からの分類)

II. 運動種目による分類(学習指導要領における運動領域・種目による分類)

III. 学年別・性別による分類(研究対象となった生徒の所属学年別、性別による分類)

IV. 研究・記述方法による分類(経験科学の研究方法並びに、記述内容の重点による分類)

### (4) 研究内容の分類の方法

分類の方法は、各研究のタイトル、記述内容の分析により分類をおこなった。研究の目的、方法、記述内容から分類項目を明確にできず、複数の項目にわたって分類されると判断された場合は、最大でも2項目への分類にとどめた。

## 4. 結果と考察

### (1) 保健体育科における研究の調査結果

平成元年現在、筑波大学附属中学校教育課程研究所資料室における資料の保管状況は、表-1のとおりであった。これは、1992年の報告における各附属中学校78校に対する郵送調査の結果から、調査協力のあった46校における既刊資料に関しては66.4%の保管状況であることが認められた。また、保健体育科における研究の調査結果は表-2のとおりであった。

第1期には、1992年の郵送調査によると、この期に2校で研究紀要の発行がおこなわれ、保健体

表-3 研究内容による分類

- I. 一般的分類
1. 中学校保健体育科に関連する諸科学的基礎的研究
    - (1) 歴史的
    - (2) 哲学的
    - (3) 生理学的
    - (4) 心理学的
    - (5) 社会学的
    - (6) 運動学的（技術分析、ゲーム分析）
  2. 保健体育科の目的、目標、学習内容に関する研究
    - (1) 歴史的変遷
    - (2) 指導要領に関連した内容
    - (3) 内容の取扱いに関して
    - (4) 学習目標分析
  3. 学習者に関する研究
    - (1) 個人差 能力差 (2) 運動者ら、つまづき（意欲欠如者） (3) 劣等感 (4) 初心者
    - (5) 男女差 (6) 肥満児 (7) 月経 (8) 障害児
    - (9) 不適応 遅滞児 (10) 授業への好意度
  4. 体育の指導計画に関する研究
    - (1) カリキュラム
    - (2) 年間計画
    - (3) 単元計画
  5. 学習指導に関する総合的研究
    - (1) 運動の概念的・特性意識の学習指導（体力づくり中心の学習過程）
    - (2) 運動の概念的・特性意識の学習指導（運動課題・技術指導中心の学習過程）
    - (3) 運動の概念的・特性意識の学習指導（生徒主体、場しき欲求充足中心の学習過程）
    - (4) 学習形態（問題解決学習、系統学習、一斉学習、個別学習、個別学習、グループ学習、男女共習）
    - (5) 学習環境（施設、設備、教育機器、用具、学習資料、カード、指導上の工夫、補強運動）
    - (6) 学習態度（リーダーシップ、モラル、チームワーク、態度の方法）
    - (7) 学習指導上の諸問題（承認、発問、助言、指示、指導案、指導の問題点、つまづき）
    - (8) 体格・体力・運動能力、発育・発達（スポーツテスト）
    - (9) 中・高一貫教育・指導
    - (10) 縦断研究、縦断分析（仮説、検証、観察、記録、量的データ、質的データ）
    - (11) 教育心理に関する事項（思考、学力、動機づけ、）
    - (12) 学習態度（意欲、やる気、自主性、自発性、主体性、創造性、自己表現、自己教育力）
    - (13) 学習の個別化・個性化（ひとり・ひとり、個、めあて、能力別編成、選択別授業、コース制編成、生涯体育・スポーツ）
    - (14) 研究の動向
    - (15) 指導方法（全習法、分習法、選択教科）
  6. 評価に関する研究
    - (1) 学習評価（技能、知識、態度、評価基準、到達度評価、達成目標、到達目標、自己評価、相互評価）
    - (2) 教育条件（学校評価）
    - (3) 指導要領
  7. 教師・指導者、制度に関する研究
    - (1) 教師・指導者
    - (2) 制度
  8. 保健分野に関する研究
    - (1) 保健の授業・学習指導
    - (2) 性教育
    - (3) 研究の動向
    - (4) 調査（保健・健康に関する意識など）
  9. その他
    - (1) クラブ（選手指導） (2) 行事 (3) 安全教育 (4) 社会教育 (5) 情報提供
    - (6) 図解理解
- II. 運動種目による分類
1. 体操 1. 0 体操金銭 2. 1 マット運動 2. 2 鉄棒運動
  2. 器械運動 2. 0 器械運動金銭 2. 4 飛び箱運動 3. 1 綱懸垂・リレー
  3. 陸上競技 2. 3 平均台運動 3. 2 中・長距離 3. 3 陸上競技金銭 3. 4 走り幅跳び 3. 5 走り高跳び
  3. 6 砲丸・ボール投げ 3. 7 やり投げ
  4. 水泳 4. 0 水泳金銭 4. 1 クロール 4. 2 平泳ぎ
  4. 3 背泳ぎ
  5. 球技 5. 0 球技金銭 5. 1 バスケットボール 5. 2 ハンドボール
  5. 3 サッカー 5. 4 バレーボール 5. 5 テニス
  5. 6 卓球 5. 7 バドミントン 5. 8 ソフトボール
  6. 武道 6. 0 武道金銭 6. 1 剣道 6. 2 剣道
  6. 3 相撲
  7. ダンス 7. 0 ダンス金銭 7. 1 創作ダンス 7. 2 フォークダンス
  8. 多項目 8. 0 (指導計画一般、評価関係、選抜制、調査)
  9. 型目不詳 9. 0 (スポーツテスト・体力・運動能力関係、発育・発達、保健、行事、その他)
  10. 冬学期技 10. 0 冬学期技金銭 10. 1 スキー 10. 2 スケート
  11. 野外活動 11. 0 野外活動金銭
- III. 学年別・性別による分類
1. 1年 1. 0 男女 1. 1 男 1. 2 女
  2. 2年 2. 0 男女 2. 1 男 2. 2 女
  3. 3年 3. 0 男女 3. 1 男 3. 2 女
  4. 全学年（指導計画一般、評価関係、理論的） 4. 0 男女 4. 1 男 4. 2 女
  5. 他校、他の学校種別を合む 5. 0 男女 5. 1 男 5. 2 女
  6. 学年不詳 6. 0 (特に記述・記載なし)
- IV. 研究方法による分類（研究方法や記述の重点による概念的・実証的基準による分類）
1. 理論的研究（哲学的）（教育の価値論、論理学、教育哲学の意識論）
  2. 歴史的研究（過去の事実の吟味・記録・分析・解釈）
  3. 記述・分析的研究（課題の真証的研究、事実、現状の記述・記録・分析・解釈）
    - (1) 実践・報告的（授業実践の報告中心、真証授業的、理論-事実-分析）
    - (2) 理論-体系的（実践経験の総括や理論化、提言、計画等）
    - (3) 調査-統計的（スポーツテスト、運動生理等に関する資料の収集、整理、分析、数量データ）
    - (4) 調査-分析的（質問紙調査、実験把握）
    - (5) 観察-記録的（行動観察、ゲーム分析、事例研究）
  4. 実験的研究（条件統制、仮説-実験-検証）
    - (1) 技術分析的（個別の運動技術に関する実験、条件統制）
    - (2) 実験的（条件統制を加えた比較研究、統制群法-二群、実験授業的、比較実験的、教授学的実験的）

II. 運動種目による分類

1. 体操	1. 0	体操全般		
2. 器械運動	2. 0	器械運動全般	2. 1	マット運動
	2. 3	平均台運動	2. 4	跳び箱運動
3. 陸上競技	3. 0	陸上競技全般	3. 1	短距離・リレー
	3. 3	障害走	3. 4	走り幅跳び
	3. 6	砲丸・ボール投げ	3. 7	やり投げ
4. 水泳	4. 0	水泳全般	4. 1	クロール
	4. 3	背泳ぎ		4. 2
5. 球技	5. 0	球技全般	5. 1	バスケットボール
	5. 3	サッカー	5. 4	バレーボール
	5. 6	卓球	5. 7	バドミントン
6. 武道	6. 0	武道全般	6. 1	柔道
	6. 3	相撲		6. 2
7. ダンス	7. 0	ダンス全般	7. 1	創作ダンス
				7. 2
8. 多項目	8. 0	(指導計画一般、評価関係、選択制、調査)		
9. 項目不詳	9. 0	(スポーツテスト・体力・運動能力関係、発育・発達、保健、行事、その他)		
10. 冬季競技	10. 0	冬季競技全般	10. 1	スキー
				10. 2
11. 野外活動	11. 0	野外活動全般		スケート

III. 学年別・性別による分類

1. 1年	1. 0	男女	1. 1	男	1. 2	女
2. 2年	2. 0	男女	2. 1	男	2. 2	女
3. 3年	3. 0	男女	3. 1	男	3. 2	女
4. 全学年	(指導計画一般、評価関係、理論的)					
	4. 0	男女	4. 1	男	4. 2	女
5. 他校、他の学校種別を含む						
	5. 0	男女	5. 1	男	5. 2	女
6. 学年不詳	6. 0	(特に記述・記載なし)				

IV. 研究・記述方法による分類 (研究方法や記述の重点による実践的・実際の基準による分類)

1. 理論的研究 (哲学的) (教育の価値論、論理学、教育言語の意味論)
2. 歴史的研究 (過去の事実の吟味・記録・分析・解釈)
3. 記述・分析的研究 (狭義の実証的研究、事実、現状の記述・記録・分析・解釈)
  - (1) 実践・報告的 (授業実践の報告中心、実証授業的、理論-事実-分析)
  - (2) 理論・總括的 (実践経験の總括や理論化、提言、計画等)
  - (3) 測定・統計的 (スポーツテスト、運動生理等に関する資料の収集、整理、分析、数量データ)
  - (4) 調査・分析的 (質問紙調査、実験把握)
  - (5) 観察・記録的 (行動観察、ゲーム分析、事例研究)
4. 実験的研究 (条件統制、仮説-実験-検証)
  - (1) 技術分析的 (個別の運動技術に関する実験、条件統制)
  - (2) 実験的 (条件統制を加えた比較研究、統制群法~二群、実験授業的、比較実験的、教授学的実験的)

表-1 筑波大学附属中学校教育課程研究所保管資料一覧（昭和28年～平成元年）

No	学 校 名	資 料
1	北海道教育大学教育学部附属札幌中学校	研究紀要 12
2	北海道教育大学教育学部附属函館中学校	研究紀要 4 研究集録 17
3	北海道教育大学教育学部附属旭川中学校	
4	北海道教育大学教育学部附属釧路中学校	研究紀要 7.8.9.556.57.58.60.61.62 学習指導の実践的研究(31)
5	弘前大学教育学部附属中学校	教育紀要 1.2.3.5.7.14.16.23.25.
6	岩手大学教育学部附属中学校	4-1.5-1.5-2.6-1. 研究要録 1.2.3.4.5.6
7	宮城教育大学教育学部附属中学校	研究紀要 1.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.20.21.22.23.24.25.26.27
8	秋田大学教育学部附属中学校	研究紀要 1 研究報告 42.44.45.46.47.51.52.54.
9	山形大学教育学部附属中学校	研究紀要 1.2.3.4.5.6.7.8.10.11.15.18.19.21.22.23.25.26. 教育実践 6.7.8.9.12
10	福島大学教育学部附属中学校	教育研究 20.27.28.34.35.37.38.39.
11	茨城大学教育学部附属中学校	2.547.468.49.50.No15.16.17..
12	筑波大学附属中学校	研究紀要 1.3.4.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.1617.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38 研究集録 2.558
13	筑波大学附属駒場中学校	研究報告 1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.24.25.26.27.28.
14	宇都宮大学教育学部附属中学校	研究集録 16.17.18.19.20.21.22.26.27.28.29.31.32.33.34.35.36.37.
15	群馬大学教育学部附属中学校	研究紀要 1.2.3.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.21.22.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.
16	埼玉大学教育学部附属中学校	研究紀要 2.3.4.5.6.7.8.9.10.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25. 学習指導の改善(64)
17	千葉大学教育学部附属中学校	研究紀要 1.2.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20. 研究要録 1.2.3.4.5.6.7
18	東京大学教育学部附属中学校	東大附属論叢 1.2.3.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.19.20.21.22.23.24.26.27.28.29.30.31.32.
19	東京学芸大学教育学部附属世田谷中学校	e41.44.47.55.57.58.No11.12.13.14.15. 教育研究 S55.58
20	東京学芸大学教育学部附属竹早中学校	研究集録 S34.35.No5.8.9.10.11.12.14.15.16.17.18.19.20.21.22.24.25.26.27.
21	東京学芸大学教育学部附属小金井中学校	研究紀要 1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.16.17.18.19.20.21.22.26.
22	東京学芸大学教育学部附属大泉中学校	研究集録 S35.36.39.40.41.42.43.44.45.No12. 3-1.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.14.25.26.27.28.29.
23	お茶の水女子大学附属中学校	研究紀要 1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18. 研究集録 1.2.
24	横浜国立大学教育学部附属鶴倉中学校	研究紀要 4.5.6.7.10.11.12.13.14.16.17. 研究集録 S42.54
25	横浜国立大学教育学部附属横浜中学校	10.13.15.16.20.21.22.23.24.26.27.28.
26	新潟大学教育学部附属新潟中学校	研究 23.24.25.26.27.28.29.31.33.34.35.36.37.
27	新潟大学教育学部附属長岡中学校	研究紀要 S40.50.57.59.60.63.H1. 教育論文 7.8.9.10.11.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.25.
28	上越教育大学学校教育学部附属中学校	研究紀要 6.9.10.13.15.16.17.18.19.20.21.22.24.25.26.27.28.30.31.32.33.34.35.37.38.39.40.41.
29	富山大学教育学部附属中学校	研究紀要 12.16.17.26.27.28.30.32.33.34.35.36.37.38.
30	金沢大学教育学部附属中学校	研究紀要 8.11.12.13.14.15.17.18.20.21.23.25.26.27.28.29.31.32. 研究資料 S60.61.
31	福井大学教育学部附属中学校	研究紀要 2.3.4.18.19.20.
32	山梨大学教育学部附属中学校	研究紀要 S43.No3.4.5.6.7.8.9.10. 中等教育研究会資料 S45.
33	信州大学教育学部附属長野中学校	中学校教育研究会要項 S42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.
34	信州大学教育学部附属松本中学校	
35	岐阜大学教育学部附属中学校	研究報告 10.11.13.15.17.19.21.22. 実践報告 S59.
36	静岡大学教育学部附属静岡中学校	研究紀要 1.3.4. 授業の研究 S47.52.
37	静岡大学教育学部附属浜松中学校	教科の系統的指導への歩み S35.36.
38	静岡大学教育学部附属島田中学校	
39	名古屋大学教育学部附属中学校	研究紀要 2.3.4.5.6.7.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.
40	愛知教育大学教育学部附属名古屋中学校	研究紀要 2.3.4.5.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.19.22.29.30.32.33.34. S50.52.54.55.57.60.61.62.
41	愛知教育大学教育学部附属岡崎中学校	S35.39.No2.3.6.9.10.11.12.13. 附中論叢 S45.No3
42	三重大学教育学部附属中学校	研究紀要 2.18.19.20.21.22.23.24.25.27.30.32
43	滋賀大学教育学部附属中学校	研究紀要 1.2.4. 授業研究 2.3.4.5.16.
44	京都教育大学教育学部附属京都中学校	S43.46.47.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.61.62.63. 研究報告 S40.
45	京都教育大学教育学部附属鞍山中学校	研究集録 2.3.4.5.6.7.8.9.10.12.13.16.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.
46	大塚教育大学教育学部附属天王寺中学校	S41.42.43.45.50.53.54.55.57.58.59.62.63. 研究集録 S35.42.
47	大阪教育大学教育学部附属平野中学校	S36.39.40.42.43.44.45.47.49.52.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63. 研究要録 6.
48	大阪教育大学教育学部附属池田中学校	研究紀要 1.2
49	兵庫教育大学学校教育学部附属中学校	研究紀要 14.15.16.17.18.19.20.21.25.26.29.30.31.33.34.35.36.37.
50	神戸大学発達科学部附属住吉中学校	研究紀要 17.18.19.22.23.25.26.27.28.29.
51	神戸大学発達科学部附属明石中学校	研究紀要 3.8.9.10.11.12.13.15.16.17.18.19.
52	奈良教育大学教育学部附属中学校	研究紀要 3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.15.16.18.19.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.
53	奈良女子大学文学部附属中学校	12.29.30.31.
54	和歌山大学教育学部附属中学校	研究報告 13.15.17.18.21.
55	鳥取大学教育学部附属中学校	研究紀要 4.5.7.8.9.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31. 教育研究 3.
56	鳥取大学教育学部附属中学校	研究紀要 1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.
57	岡山大学教育学部附属中学校	教育研究 5.6.7.8.14.15.20.22.23.24.26.27.28.29.31.32.33.34.35.
58	広島大学附属中学校	11.12.13.15.16.19.21.22.24.25.26. 中学教育 4.10.
59	広島大学附属東洋中学校	研究紀要 6.7.9.12.14.15.17.18.19.20.21.22.23.25.26.
60	広島大学附属三原中学校	研究紀要 1.2.3.4.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.24.25.26.28.29
61	広島大学附属福山中学校	研究紀要 16.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.
62	山口大学教育学部附属山口中学校	研究紀要 18.19.21.22.23.24.25.26.27.28.
63	山口大学教育学部附属光中学校	研究紀要 10.11.14.15.16.18.20.24.25.26.27.28.30.31.32.33.34.35.36. 研究集録 S42.
64	山口大学教育学部附属高松中学校	研究報告 1-1-1-2.1-6.1-7.1-8.
65	香川大学教育学部附属高松中学校	研究紀要 S45.53.59. 研究報告 S50.53.54.55.56.57.62.
66	香川大学教育学部附属坂出中学校	研究紀要 19.20.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.
67	愛媛大学教育学部附属中学校	14.15.18.19.23.24.
68	高知大学教育学部附属中学校	研究紀要 1.4.5.6.8.S49.50.52.58.61.
69	福岡教育大学教育学部附属福岡中学校	S52.55.
70	福岡教育大学教育学部附属小倉中学校	研究紀要 S60.
71	福岡教育大学教育学部附属久留米中学校	研究紀要 2.3.4.5.6.7.8.9.11.12.13.15.16.
72	佐賀大学教育学部附属中学校	研究紀要 S55.56.57.58.59.60.61.62. 研究集録 7.8.9.10.11.12.
73	長崎大学教育学部附属中学校	研究紀要 1.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.
74	熊本大学教育学部附属中学校	研究紀要 10.23.24.25.26.29.31.32.33.34.35.36.37.
75	大分大学教育学部附属中学校	研究紀要 S40.41.43.46.51.56.57.
76	宮崎大学教育学部附属中学校	研究紀要 1.2.3.4.8.11.
77	鹿児島大学教育学部附属中学校	
78	琉球大学教育学部附属中学校	



向山：国立大学附属中学校保健体育科における研究の変遷（その5）

表-4-1 一般的分類

	第1期 1947-50(昭和22-25)	第2期 1951-57(昭和26-32)	第3期 1958-68(昭和33-43)	第4期 1969-76(昭和44-51)	第5期 1977-88(昭和52-63)	42年間の合計
1-(1) 歴史的	0	0	0	0	4 (0.9)19.0	4 (0.5)12.5
1-(2) 哲学的	0	0	0	0	0	0
1-(3) 生理学的	0	0	0	3 (2.0)50.0	3 (0.7)14.3	6 (0.8)18.8
1-(4) 心理学的	0	0	0	0	0	0
1-(5) 社会学的	0	0	2 (1.2)40.0	0	2 (0.5)9.5	4 (0.5)12.5
1-(6) 運動学的	0	0	3 (1.8)60.0	3 (2.0)50.0	12 (2.7)57.1	18 (2.3)56.2
小計	0 [0.0]	0 [0.0]	5 [3.0]	6 [4.0]	21 [4.8]	32 [4.1]
2-(1) 歴史の変遷	0	0	0	0	0	0
2-(2) 指導要領	0	0	3 (1.8)100.0	0	0	3 (0.4)37.5
2-(3) 内容取り扱い	0	1 (4.7)100	0	0	1 (0.2)25.0	2 (0.3)25.0
2-(4) 学習目標分析	0	0	0	0	3 (0.7)75.0	3 (0.4)37.5
小計	0 [0.0]	1 [4.7]	3 [1.8]	0 [0.0]	4 [0.9]	8 [1.0]
3-(1) 個人差能力差	0	0	1 (0.6)9.1	4 (2.7)66.7	3 (0.7)16.7	8 (1.0)21.1
3-(2) 運動織い	0	2 (9.5)66.7	1 (0.6)9.1	0	3 (0.7)16.7	6 (0.8)15.8
3-(3) 劣等感	0	0	1 (0.6)9.1	0	0	1 (0.1)2.6
3-(4) 初心者	0	0	2 (1.2)18.2	1 (0.7)16.7	0	3 (0.4)7.9
3-(5) 男女差	0	0	1 (0.6)9.1	0	2 (0.5)11.1	3 (0.4)7.9
3-(6) 肥満児	0	0	1 (0.6)9.1	0	0	1 (0.1)2.6
3-(7) 月経	0	0	4 (2.4)36.4	1 (0.7)16.7	0	5 (0.6)13.2
3-(8) 障害児	0	1 (4.7)33.3	0	0	0	1 (0.1)2.6
3-(9) 不適応・遅滞児	0	0	0	0	5 (1.1)27.8	5 (0.6)13.2
3-(10) 授業への好意度	0	0	0	0	5 (1.1)27.8	5 (0.6)13.2
小計	0 [0.0]	3 [14.2]	11 [6.6]	6 [4.1]	18 [4.2]	38 [4.9]
4-(1) カリキュラム	0	0	5 (3.0)45.5	3 (2.6)60.6	13 (2.9)68.4	21 (2.7)60.0
4-(2) 年間計画	0	0	6 (3.6)54.5	0	2 (0.5)10.5	8 (1.0)22.9
4-(3) 単元計画	0	0	0	2 (1.4)40.0	4 (0.9)21.1	6 (0.8)17.1
小計	0 [0.0]	0 [0.0]	11 [6.6]	5 [4.0]	19 [4.3]	35 [4.5]
5-(1) 効果的特性	0	0	1 (0.6)0.8	2 (1.4)1.9	0	3 (0.4)0.5
5-(2) 適適的特性	0	5 (23.8)33.3	49 (29.3)41.5	21 (14.4)20.0	24 (6.6)7.1	99 (12.8)17.2
5-(3) 職能的特性	0	0	0	2 (1.4)1.9	55 (12.6)16.2	57 (7.1)9.9
5-(4) 学習形態	0	3 (14.3)20.0	16 (10.0)13.6	6 (4.1)5.7	7 (1.6)2.1	39 (5.1)6.8
5-(5) 学習環境	0	1 (4.7)6.7	3 (1.8)2.5	9 (6.2)8.6	7 (1.6)2.1	20 (2.6)3.5
5-(6) 学習集団	0	4 (19.1)26.7	2 (1.2)1.7	4 (2.7)3.8	7 (1.6)2.1	17 (2.2)2.9
5-(7) 学習指導上問題	0	0	4 (2.4)3.4	2 (1.4)1.9	7 (1.6)2.1	13 (1.7)2.3
5-(8) 体格・体力	0	2 (9.5)13.3	23 (13.8)19.5	11 (7.5)10.5	18 (4.1)5.3	54 (7.0)9.4
5-(9) 中・高一貫教育	0	0	2 (1.2)1.7	3 (2.0)2.9	9 (2.1)2.7	14 (1.8)2.4
5-(10) 授業研究・分析	0	0	1 (0.6)0.8	1 (0.7)1.0	6 (1.4)1.8	8 (1.0)1.4
5-(11) 教育心理	0	0	0	2 (1.4)1.9	8 (1.8)2.4	10 (1.3)1.7
5-(12) 学習態度	0	0	9 (5.4)7.6	27 (18.5)25.7	103 (23.5)30.0	139 (18.0)24.1
5-(13) 個別化個性化	0	0	0	14 (9.6)13.3	86 (19.6)25.4	100 (13.0)17.3
5-(14) 研究の動向	0	0	1 (0.6)0.8	1 (0.7)1.0	1 (0.2)0.3	3 (0.4)0.5
5-(15) 指導方法	0	0	7 (4.2)5.9	0	1 (0.2)0.3	1 (0.1)0.2
小計	0 [0.0]	15 [71.4]	118 [70.7]	105 [72.0]	339 [78.5]	577 [74.7]
6-(1) 学習評価	0	0	10 (6.0)100	8 (5.5)100	14 (3.2)100	32 (4.1)94.1
6-(2) 教育条件	0	1 (4.7)50.0	0	0	0	1 (0.1)2.9
6-(3) 指導要録	0	1 (4.7)50.0	0	0	0	1 (0.1)2.9
小計	0 [0.0]	2 [9.4]	10 [6.0]	8 [5.5]	14 [3.2]	34 [4.4]
7-(1) 教師・指導者	0	0	0	0	0	0
7-(2) 制度	0	0	0	0	0	0
小計	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]
8-(1) 保健の授業	0	0	3 (1.8)60.0	7 (4.8)70.0	5 (1.1)35.7	15 (1.9)51.7
8-(2) 性教育	0	0	0	1 (0.7)10.0	4 (0.9)28.6	5 (0.6)17.2
8-(3) 研究の動向	0	0	0	0	0	0
8-(4) 調査	0	0	2 (1.2)40.0	2 (1.4)20.0	5 (1.1)35.7	9 (1.2)31.0
小計	0 [0.0]	0 [0.0]	5 [3.0]	10 [6.9]	14 [3.1]	29 [3.8]
9-(1) クラブ選手指導	0	0	2 (1.2)50.0	3 (2.0)50.0	3 (0.7)33.3	8 (1.0)42.1
9-(2) 行事	0	0	1 (0.6)25.0	2 (1.4)33.3	5 (1.1)55.6	8 (1.0)42.1
9-(3) 安全教育	0	0	1 (0.6)25.0	0	0	1 (0.1)5.3
9-(4) 社会教育	0	0	0	1 (0.7)16.7	0	1 (0.1)5.3
9-(5) 情報提供	0	0	0	0	0	0
9-(6) 国際理解	0	0	0	0	1 (2.0)11.1	1 (0.1)5.3
小計	0 [0.0]	0 [0.0]	4 [2.4]	6 [4.1]	9 [2.0]	19 [2.5]
合計	0	21	167	146	438	772

\* ( )内の数値は全体における割合、( )の右側は各項目における割合

表-4-2 運動種目による分類

		第1期 1947-50(昭和22-25)	第2期 1951-57(昭和26-32)	第3期 1958-68(昭和33-43)	第4期 1969-76(昭和44-51)	第5期 1977-83(昭和52-63)	42年間の合計
1-1.0	体操	0	1 (4.5)100	2 (1.2)100	8 (5.0)100	12 (2.6)100	23 (2.8)100
	小計	0 [0.0]	1 [4.5]	2 [1.2]	8 [5.0]	12 [2.6]	23 [2.8]
2-2.0	器械運動全般	0	0	5 (3.0)26.3	2 (1.3) 8.0	5 (1.1) 7.0	12 (1.5)10.2
2-2.1	マット運動	0	0	5 (3.0)26.3	11 (6.9)44.0	41 (8.7)57.7	57 (7.0)48.3
2-2.2	鉄棒運動	0	2 (9.1)66.7	4 (2.4)21.1	3 (1.9)12.0	12 (2.6)16.9	21 (2.6)17.8
2-2.3	平均台運動	0	0	0	1 (0.6) 4.0	1 (0.2) 1.4	2 (0.2) 1.7
2-2.4	跳び箱運動	0	1 (4.5)33.3	5 (3.0)26.3	8 (5.0)32.0	12 (2.6)16.9	26 (3.2)22.0
	小計	0 [0.0]	3 [13.6]	19 [11.4]	25 [15.7]	71 [15.2]	118 [14.4]
3-3.0	陸上競技全般	0	1 (4.5)50.0	10 (5.9)52.6	5 (3.1)15.6	7 (1.5) 9.0	23 (2.8)17.6
3-3.1	短距離・リレー	0	0	2 (1.2)10.5	2 (1.3) 6.3	20 (4.3)25.6	24 (2.9)18.3
3-3.2	中・長距離	0	0	1 (0.6) 5.3	7 (4.4)21.9	16 (3.4)20.5	24 (2.9)18.3
3-3.3	障害走	0	0	3 (1.8)15.8	7 (4.4)21.9	22 (4.7)28.2	32 (3.9)24.4
3-3.4	走り幅跳び	0	0	1 (0.6) 5.3	3 (1.9) 9.4	5 (1.1) 6.4	9 (1.1) 6.9
3-3.5	走り高跳び	0	0	2 (1.2)10.5	5 (3.1)15.6	8 (1.7)10.3	15 (1.8)11.5
3-3.6	砲丸・ボール投	0	1 (4.5)50.0	0	2 (1.3) 6.3	0	3 (0.4) 2.3
3-3.7	やり投げ	0	0	0	1 (0.6) 3.1	0	1 (0.1) 0.8
	小計	0 [0.0]	2 [9.0]	19 [11.3]	32 [20.1]	78 [16.7]	131 [16.0]
4-4.0	水泳全般	0	1 (4.5)100	6 (3.5)100	0	8 (1.7)80.0	15 (1.8)88.2
4-4.1	クロール	0	0	0	0	1 (0.2)10.0	1 (0.1) 5.9
4-4.2	平泳ぎ	0	0	0	0	1 (0.2)10.0	1 (0.1) 5.9
4-4.3	背泳ぎ	0	0	0	0	0	0
	小計	0 [0.0]	1 [4.5]	6 [3.5]	0 [0.0]	10 [2.1]	17 (2.1)
5-5.0	球技全般	0	0	0	0	0	0
5-5.1	バスケボール	0	3 (13.6)50.0	15 (8.8)37.5	14 (8.8)46.7	61 (13.0)43.3	93 (11.3)42.9
5-5.2	ハンドボール	0	0	0	0	2 (0.4) 1.4	2 (0.2) 0.9
5-5.3	サッカー	0	0	5 (3.0)12.5	5 (3.1)16.7	25 (5.3)17.7	35 (4.3)16.1
5-5.4	バレーボール	0	3 (13.6)50.0	20 (11.8)50.0	10 (6.3)33.3	50 (10.6)35.5	83 (10.1)38.2
5-5.5	テニス	0	0	0	1 (0.6) 3.3	2 (0.4) 1.4	3 (0.4) 1.4
5-5.6	卓球	0	0	0	0	0	0
5-5.7	バドミントン	0	0	0	0	1 (0.2) 0.7	1 (0.1) 0.5
5-5.8	ソフトボール	0	0	0	0	0	0
	小計	0 [0.0]	6 [27.2]	40 [23.6]	30 [18.8]	141 [29.9]	217 [26.5]
6-6.0	武道全般	0	0	0	0	0	0
6-6.1	柔道	0	0	0	1 (0.6)25.0	4 (0.9)30.8	5 (0.6)26.3
6-6.2	剣道	0	0	2 (1.2)100	3 (1.9)75.0	8 (1.7)61.5	13 (1.6)68.4
6-6.3	相撲	0	0	0	0	1 (0.2) 7.7	1 (0.1) 0.5
	小計	0 [0.0]	0 [0.0]	2 [1.2]	4 [2.5]	13 [2.8]	19 [2.3]
7-7.0	ダンス全般	0	1 (4.5)100	1 (0.6) 5.3	0	5 (1.1)12.5	7 (0.9) 8.9
7-7.1	創作ダンス	0	0	17 (10.0)89.4	19 (12.0)100	35 (7.4)87.5	71 (8.7)89.9
7-7.2	フォークダンス	0	0	1 (0.6) 5.3	0	0	1 (0.1) 1.2
	小計	0 [0.0]	1 [4.5]	19 [11.2]	19 [12.0]	40 [8.5]	79 [9.6]
8-8.0	多項目	0	4 (18.1)100	21 (12.4)100	11 (6.9)100	51 (10.9)100	87 (10.6)100
	小計	0 [0.0]	4 [18.1]	21 [12.4]	11 [6.9]	51 [10.9]	87 [10.6]
9-9.0	種目不詳	0	4 (18.1)100	41 (24.2)100	29 (18.2)100	52 (11.1)100	126 (15.4)100
	小計	0 [0.0]	4 [18.1]	41 [24.2]	29 [18.2]	52 [11.1]	126 [15.4]
10-10.0	冬季競技全般	0	0	0	1 (0.6)100	0	1 (0.1)100
10-10.1	スキー	0	0	0	0	0	0
10-10.2	スケート	0	0	0	0	0	0
	小計	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	1 [0.6]	0 [0.0]	1 [0.1]
11-11.0	野外活動	0	0	0	0	2 (0.4)100	2 (0.2)100
	小計	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	2 [0.4]	2 [0.2]
	合計	0	22	169	159	470	820

\* ( )内の数値は全体における割合、( )の右側は各項目における割合

育科に関する資料も1編確認された(但し、これは当該校の保管状況にあるため本研究の分析には含めなかった)。

第2期以降は研究数も増加した。各期の一年毎の研究数の平均は第2期:2.9, 第3期:14.3, 第4期:16.3, 第5期:33と漸増傾向と第5期の急

増が認められ量的な拡大傾向が伺われた。

しかし、全国の附属中学校保健体育科における研究数の変容を把握するためには、全附属中学校の戦後発行された研究紀要レベルの資料の総数の把握、発行開始時期等に関する実態調査の必要性が課題となった。

表-4-3 学年別・性別による分類

	第1期 1947-50(昭和22-25)	第2期 1951-57(昭和26-32)	第3期 1958-68(昭和33-43)	第4期 1969-76(昭和44-51)	第5期 1977-88(昭和52-63)	42年間の合計
1-1.0 男女	0	0	7 (4.0)20.0	10 (6.2)31.3	21 (4.5)16.8	38 (4.6)19.7
1-1.1 男	0	1 (5.0)100	15 (8.7)42.9	9 (5.6)28.1	64 (13.7)51.2	89 (10.8)46.1
1-1.2 女	0	0	13 (7.5)37.1	13 (8.0)40.6	40 (8.5)32.0	66 (6.7)29.9
小計	0 [0.0]	1 [5.0]	35 [20.2]	32 [19.8]	125 [26.7]	193 [23.5]
2-2.0 男女	0	1 (5.0)25.0	7 (4.0)23.3	14 (8.6)42.4	16 (3.4)13.7	38 (4.6)20.7
2-2.1 男	0	2 (10.0)50.0	14 (8.1)46.7	14 (8.6)42.4	61 (13.0)52.1	91 (11.1)49.5
2-2.2 女	0	1 (5.0)25.0	9 (5.2)30.0	5 (3.1)15.2	40 (8.5)34.2	55 (6.7)29.9
小計	0 [0.0]	4 [20.0]	30 [17.3]	33 [20.4]	117 [24.8]	184 [22.4]
3-3.0 男女	0	0	4 (2.3)19.0	9 (5.6)23.1	22 (4.7)24.7	35 (4.3)23.2
3-3.1 男	0	2 (10.0)100	10 (5.8)47.6	21 (13.0)53.8	41 (8.8)46.1	74 (9.0)49.0
3-3.2 女	0	0	7 (4.0)33.3	9 (5.6)23.1	26 (5.6)29.2	42 (5.1)27.8
小計	0 [0.0]	2 [10.0]	21 [12.1]	39 [24.1]	89 [19.0]	151 [18.3]
4-4.0 男女	0	8 (40.0)80.0	63 (36.4)82.9	25 (15.4)75.8	68 (14.5)78.2	164 (19.9)79.6
4-4.1 男	0	0	6 (3.5)7.9	3 (1.9)9.1	7 (1.5)8.0	16 (1.9)7.8
4-4.2 女	0	2 (10.0)20.0	7 (4.0)9.2	5 (3.1)15.2	12 (2.6)13.8	26 (3.4)12.6
小計	0 [0.0]	10 [50.0]	76 [43.9]	33 [19.8]	87 [18.6]	206 [25.0]
5-5.0 男女	0	2 (10.0)100	4 (2.3)66.7	8 (5.0)61.5	21 (4.5)84.0	35 (4.3)76.1
5-5.1 男	0	0	2 (1.2)33.3	2 (1.2)15.4	3 (0.6)12.0	7 (0.9)15.2
5-5.2 女	0	0	0	3 (1.9)23.1	1 (0.2)4.0	4 (0.5)8.7
小計	0 [0.0]	2 [10.0]	6 [3.5]	13 [8.0]	25 [5.3]	46 [5.6]
6-6.0 学年不詳	0	1 (5.0)100	5 (2.9)100	12 (7.4)100	25 (5.3)100	43 (5.2)100
小計	0 [0.0]	1 [5.0]	5 [2.9]	12 [7.4]	25 [5.3]	43 [5.2]
合計	0	20	173	162	468	823

\* ( )内の数値は全体における割合 ( )の右側は各項目における割合

表-4-4 研究・記述方法による分類

	第1期 1947-50(昭和22-25)	第2期 1951-57(昭和26-32)	第3期 1958-68(昭和33-43)	第4期 1969-76(昭和44-51)	第5期 1977-88(昭和52-63)	42年間の合計
1 理論的研究	0	0	0	0	1 (0.2)100	1 (0.1)100
小計	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	1 [0.2]	1 [0.1]
2 歴史的研究	0	0	0	0	4 (0.9)100	4 (0.5)100
小計	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	4 [0.9]	4 [0.5]
3(1) 実験・報告的	0	3 (15.0)16.7	43 (26.1)29.5	59 (38.6)43.7	221 (50.8)54.2	326 (42.2)46.1
3(2) 理論・総合的	0	8 (40.0)44.4	42 (25.5)28.8	31 (20.3)23.0	75 (17.2)18.4	156 (20.2)22.1
3(3) 測定・統計的	0	1 (5.0)5.6	17 (10.3)11.6	5 (3.3)3.7	19 (4.4)4.7	42 (5.4)5.9
3(4) 調査・分析的	0	5 (25.0)27.8	36 (21.8)24.7	33 (21.6)24.4	68 (15.6)16.7	142 (18.4)20.1
3(5) 観察・記録的	0	1 (5.0)5.6	8 (4.8)5.4	7 (4.6)5.2	25 (5.7)6.1	41 (5.6)5.8
小計	0 [0.0]	18 [90.0]	146 [88.5]	135 [88.2]	408 [93.8]	707 [91.5]
4(1) 技術分析的	0	0	6 (3.6)31.6	2 (1.3)11.1	6 (1.4)27.3	14 (1.8)23.0
4(2) 実験的	0	2 (10.0)100	13 (7.9)68.4	16 (10.5)88.9	16 (3.7)72.7	47 (6.1)77.0
小計	0 [0.0]	2 [10.0]	19 [11.5]	18 [11.8]	22 [5.1]	61 [7.9]
合計	0	20	165	153	435	773

\* ( )内の数値は全体における割合 ( )の右側は各項目における割合

## (2) 各附属中学校保健体育科における研究の調査・分類・分析

保健体育科における研究の調査・分類・分析は、42年間、702の研究についておこなった。結果は表-4-1, 2, 3, 4のとおりであった。

### I 一般的分類

[全体的傾向] 各時代区分, 各分類項目における研究数, 全体並びに各項目内における割合は表-4-1のとおりであった。

42年間の合計で最も多かったのは分類項目5の「学習指導に関する総合的研究」で、第1期を除

き各時代区分で常に全体の70%以上を占め、漸増傾向とあわせて附属学校の研究の中心であった。この項目以外は5%以下になり、最低は分類項目7の「教師・指導者、制度に関する研究」の0%であった。

[分類項目1] 「中学校保健体育科に関連する諸科学的基礎的研究」においては年代を経るに従い多様化、漸増化の傾向が認められた。項目別では1-(6)の運動学的研究が中心で、特に第5期に急増傾向が認められた。これらの研究は同一個人・グループによる継続的研究の報告、及び所属大学

との連携による共同研究としての傾向が伺えた。また、1-(2)の哲学的研究が1期から5期をとおして出現がないこと、1-(1)の歴史的研究の第5期における増加も特徴的であった。

【分類項目2】「保健体育科の目的、目標、学習内容に関する研究」は42年間の合計が全体の1%で研究対象としては、やや低調であった。

【分類項目3】「学習者に関する研究」は42年間の研究の多様性が認められたが、経年的には減少傾向であった。多様性は特に第3期に顕著であった。第5期に3-(9)の不適應、3-(10)の生徒の授業への好意度などの新しい内容が出現した。3-(10)は小林<sup>8)</sup>の考案による授業診断のための態度測定尺度を中心とした内容であった。第5期の1980年以降、小林の態度測定尺度は項目(10)における研究数の5を含め、全部で14の研究において利用されているのが特徴的であった。

【分類項目4】「体育の指導計画に関する研究」は、全体では2番目の研究数を示したが、この領域は単独で研究されているだけでなく、運動種目別や、総合的研究の一部としても記述されていた。

【分類項目5】「学習指導に関する総合的研究」は附属学校の研究の中核的部分であった。42年間の内訳で最も多かったのは、項目5-(12)の学習態度(139, 18.0% (全項目中の割合、以下同じ))、次いで5-(13)の学習の個別化・個性化(100, 13.0%)、5-(2)の運動の構造的 특성重視の学習指導の(99, 12.8%)、5-(3)のであった。

各時代区分ごとの経年的変化については以下のように考察した。

第1期は学校体育指導要綱発行後の4年間であった。1992年の郵送調査において確認された研究数は1であった。この時代、わが国の体育事情は大きな変革期にあった<sup>9)</sup>。体制の確立に重点が置かれ実践的、理論的な現場研究の実施が困難な時代背景があった。

第2期は、20校程度で研究紀要の発行が開始された。しかし、研究数は7年間で21と少なかった。また内容の多様性や研究傾向も認められなかった。第2期も現場研究の実施には厳しい状況が伺えた。

内容的には、5-(2)の運動の構造的 특성重視の学習指導(5, 23.8%)、5-(6)の学習集団(4, 19.1%)、5-(4)の学習形態(3, 14.3%)、5-(8)の体格・体力・運動能力・発育・発達(スポーツテスト)(2, 9.5%)の順であった。

第3期は、研究内容の多様化が認められた。この時期は運動技能を系統的に指導することが強調<sup>10)</sup> <sup>11)</sup>されたが、第2期に最多であった5-(2)の運動の構造的 특성重視の学習指導(49, 29.3%)は増加し、42年間で最も高い割合を示し明確な研究傾向が伺えた。次いで、5-(8)の体格・体力・運動能力・発育・発達(スポーツテスト)(23, 13.8%)となった。グループ学習かシステム学習かの議論も盛んであったが、5-(4)の学習形態(16, 10.0%)も高い割合を示す結果となった。一方、第2期に第2位を占めた5-(6)の学習集団(2, 1.2%)は激減し、研究者の関心が大きく変化化した。

第4期は、体力づくりが強調された時代<sup>12)</sup> <sup>13)</sup>であったが結果には顕著には現れなかった。5-(12)の学習態度(27, 18.5%)が高い割合を示した。これは、次の5期の先取的研究としての影響とも考えられた。次いで、5-(2)の運動の構造的 특성重視の学習指導(21, 14.4%)になるが、第3期の半分以上と減少傾向を示した。

第5期は、生涯スポーツが強調され始めた<sup>14)</sup> <sup>15)</sup>。5-(12)の学習態度(103, 23.5%)、5-(13)学習の個別化・個性化(86, 19.6%)、5-(3)運動の機能的特性重視の学習指導(55, 12.6%)等の内容が上位を占め、題目に「意欲的」、「自主性」、「主体性」、「一人一人」、「個を生かした」等の語句を含む研究が主流となった。また、5-(13)の学習の個別化・個性化の内容における、選択制授業としてのコース別学習に関するものが25出現し特徴的であった。これらの結果は1977(昭和52)年の学習指導要領の改訂、及び1983(昭和58)年の中央教育審議会「教育内容小委員会報告」を初めとする一連の教育改革(1985から1987までの臨時教育審議会、教育課程審議会)の報告、答申との関連性があったと考える。

以上の結果から、時代区分における強調が調査

結果に現れたのは3期と5期で、1期と2期は時代背景に起因し研究傾向らしきものは把握できなかった。4期は次の5期の先取的な研究としての影響も考えられた。全般的には分類項目5の結果は、学習指導要領の改訂の内容の変化と比較的関連性のある傾向が伺えた。

〔分類項目6〕「評価に関する研究」は、項目6-1(1)の学習評価に関する研究が中心であった。6-2、(3)は停滞傾向であった。

〔分類項目7〕「教師・指導者、制度に関する研究」は42年間出現せず、関心の薄さが特徴的であった。

〔分類項目8〕「保健分野に関する研究」は体育に比較し、報告数も少なく一般的分類のなかでも3.8%と低調であった。

「一般的分類」の全体をとおしては、分類項目5の「学習指導に関する総合的研究」において学習指導要領の改訂に伴う内容や強調の変化との関連性が伺えた。特に3期及び5期において顕著であった。一方、「諸科学的基礎的研究」、「保健体育科の目的、目標、学習内容」、「学習者」、「指導計画」、「評価」、「教師・指導者、制度」、「保健分野」等の領域に関する研究は低調であった。

保健体育科教育を取り巻く問題は多様であり、多領域にわたり未解決の課題も数多くあると考える。教育現場の教師が保健体育科教育の中心的実践場面である「授業」に関連する「学習指導法」や「授業づくり」、「授業の工夫」に研究の重点や関心を寄せることは当然の姿勢であり否定することはできない。しかし、授業の基本的構成要素としての「学習者」、「教師・指導者、制度」に関する研究が不足し欠落している傾向も検討する必要があると思われた。

今回の結果は、国立大学附属中学校保健体育科における研究内容が、学習指導要領の改訂に伴う今日の課題に偏る傾向にあった。附属中学校の使命としての「先導的研究」、所属する大学の学部との「共同研究」を促進する必要性もあり研究の質的な側面に関して問題提起された結果となった。

## Ⅱ 運動種目による分類

〔全体〕 運動種目で最も多かったのは分類項目5の球技(217, 26.5% (運動種目中の割合, 以下同じ))であった。つづいて、項目3の陸上競技(131, 16.0%)、項目9の種目不詳(スポーツテスト等, 126, 15.4%)、項目2の器械運動(118, 14.4%)であった。少なかったのは項目10の冬季競技(1, 0.1%)、項目11の野外活動(2, 0.2%)、項目4の水泳(17, 2.1%)、項目6の武道(19, 2.3%)であった。

単一種目では、5-5.1のバスケットボール(93, 11.3%)、5-5.4のパレーボール(83, 10.1%)、7-7.1の創作ダンス(71, 8.7%)が全種目中に占める割合が高く特徴的であった。

〔分類項目2〕 器械運動では2-2.1のマット運動(57, 7.0%)、2-2.4の跳び箱運動(26, 3.2%)、2-2.2の鉄棒運動(21, 2.6%)順に多く出現した。しかし、2-2.3平均台は(2, 0.2%)と少なく特徴的であった。

時代区分別の傾向としては第3期以降、器械運動の領域において常マット運動がに最上位を占めていた。

〔分類項目3〕 陸上競技は全体でも球技に次いで多く取り扱われていた。42年間の合計では、3-3.3の障害走(32, 3.9%)が最も多かった。次いで3-3.1の短距離・リレー(24, 2.9%)、3-3.2の中・長距離(24, 2.9%)であった。少なかったのは、3-3.7のやり投げ(1, 0.1%)、3-3.6の砲丸投げ(3, 0.4%)であった。

時代区分別の傾向としては、第3期までは3-3.0の陸上全般が最上位であったが、第4期以降は障害走が最上位となった。

〔分類項目4〕 運動種目全体からみて、研究的側面の不足が感じられた。一方で、水泳は、時期や指導期間の側面から研究の難しさがあると思われた。

〔分類項目5〕 42年間の合計では、5-5.1のバスケットボール(93, 11.3%)、5-5.4のパレーボール(83, 10.1%)、5-5.3のサッカー(35, 4.3%)は研究対象・手段として数多く取り扱われると共に、球技の大半を占めていた。一方、少

なかったのは5-5.6の卓球(0, 0.0%), 5-5.8ソフトボール(0, 0.0%)で関連する研究はまだ出現していない。

時代区分別の傾向としては、第2期、第3期においては、バレーボールが最上位を占め、第4期、第5期においてはバスケットボールが最上位を占めた。

[分類項目6] 武道は出現が少なく、研究対象として今後の課題なのではないかと思われた。

[分類項目7] ダンスは創作ダンス(71, 8.7%)中心の傾向であった。41年間附属学校の保健体育科において継続的に研究されている研究対象であった。

[分類項目9] 種目不詳の内容(126, 15.5%)が高い割合を占めたが、これはスポーツテスト等も含めた結果とも考えられた。

[分類項目10] 冬季競技については、スキー、スケートは出現していない。

[分類項目11] 野外活動についても、研究は少なかった。

### Ⅲ 学年別・性別による分類

結果は表-4-Ⅲのとおりであった。学年別ではの全学年を対象とした内容が(206, 25.0%)で最も多く、つづいて1年生(193, 23.5%), 2年生(184, 22.4%), 3年生(151, 18.3%)であった。

経年的には全学年対象の減少傾向と2年生対象の増加傾向がみられた。一方、男女別では1, 2, 3年生とも男子対象の研究、女子、男女一緒の順であった。また1, 2年生の男子を対象とした研究が増加傾向にあった。全体的、包括的傾向からの変化が伺えると思われた。

### Ⅳ 研究方法による分類

結果は表-4-Ⅳのとおりであった。記述・分析的研究方法(707, 91.5%)によるものが9割以上を占め、次いで実験的な研究方法であった。第5期に理論的、歴史的研究の出現がみられた。

記述・分析的研究方法のなかでは、実践・報告的研究(326, 42.2%)が4割を占めると同時に時

代を経るに従い漸増傾向を示した。理論的・総合的研究は減少傾向を示した。

## 5. まとめ

本研究における1947~88年の42年間の研究内容の調査・分類・分析の結果、考察から次のようにまとめをおこなった。

経年的変化に関しては、研究内容、種目は年代を経るに従い量的拡大が認められる傾向にあった。特に、1977(昭和52)年以降は急増傾向がみられた。

研究内容と学習指導要領の改訂に伴う内容や強調の関連性については、「教育課程の基準の改善方針」など、指導理念の変化の影響が反映された結果となった。しかし、一方で研究内容の質的側面に関して偏りを生じる結果となり、保健体育科を取り巻く各領域への取り組みが期待された。

運動種目による分類においては、球技の割合が高い結果となった。単一種目ではバスケットボール、バレーボール、創作ダンスの多いのが特徴的であった。また、背泳ぎ、卓球、ソフトボール、スキー、スケートなど42年間出現しない種目もあった。

学年別・性別の対象に関しては分化傾向がみられ、全体的、包括的傾向からの変化が伺えたが、研究の目的と対象学年との関連性は薄いと考えた。しかし、今後は学習内容と学年、性別などの関連性の視点からの研究も要求されると考えた。

研究方法は記述・分析的研究方法が90%近くを占める傾向にあった。教育現場における研究方法としては予想された結果と考えるが、教育研究的には附属学校という環境から大学における学部と連携し共同研究を促進する必要性も示唆された。

## 6. 今後の課題

本研究の結果、今後の課題として次のような課題が提示されたと考える。

- ・筑波大学附属中学校教育課程研究所資料室における、欠落部分の資料収集。
- ・平成元年以降の資料の調査・分類・分析。
- ・各附属中学校ごとの研究傾向の分析。

## 謝 辞

本研究は6年間の研究のまとめとして位置づけられる。この間、本学教授會田 勝氏には様々なご助言を頂いた。また、筑波大学附属中学校元主事、故小谷金蔵氏には資料収集期間に大変お世話になった。伏して感謝する次第である。

## 注及び引用文献

- 1) 筑波大学附属中学校・高等学校百年史編集委員会編，筑波大学附属中学校・高等学校創立百年史，第一法規，1988，pp. 5-7.
- 2) 細谷俊夫他編，新教育学大事典6，第一法規，1990，p. 194.
- 3) 口頭発表は中国・日本学校体育研究会（1990），日本体育学会第42回大会（1991），日本体育学会東京支部第19回大会（1992），日本体育学会第43回大会（1992），日本体育学会第45回大会（1994），日本体育学会第46回大会（1995），日本体育学会第47回大会（1996）であった。
- 4) 拙稿，国立大学附属中学校保健体育科における体育指導研究の変遷（その1）1953～1989，筑波大学附属中学校研究紀要第43号，pp. 89-108，1991.
- 5) 拙稿，国立大学附属中学校保健体育科における研究の変遷（その2），東京体育学研究1992年度報告，pp. 75-91，1992.
- 6) 拙稿，国立大学附属中学校保健体育科における研究の変遷（その3），鹿屋体育大学学術研究紀要第13号，pp. 19-32，1995.
- 7) 拙稿，国立大学附属中学校保健体育科における研究の変遷（その4），体育・スポーツ史研究の展望－国際的成果と課題－，pp. 552-570，1996.
- 8) 現兵庫教育大学教授 小林 篤氏
- 9) 生江義男他編，教科教育百年史，建泉社，1985，p. 895.
- 10) 成田十次郎・前田幹夫編著，体育科教育学，ミネルヴァ書房，1987，p. 83-84.
- 11) 阪田尚彦他編，学校体育授業事典，大修館，1995，p. 104.
- 12) 前掲書10)
- 13) 前掲書11)
- 14) 前掲書10)
- 15) 前掲書11) p. 105.

## 参考文献

- 1) 井上一男，学校体育制度史，大修館，1976，pp. 582.
- 2) 宇土正彦，体育科教育入門，大修館，1983，pp. 344.
- 3) 細谷俊夫他編，新教育学大事典6，第一法規，1990，pp. 601.
- 4) 海後宗臣・吉田 昇・村井 実編，教育学全集1教育学の理論，小学館，1975，pp. 370.
- 5) 岸野雄三，現代保健体育学体系2体育史，大修館，1973，pp. 310.
- 6) 竹之下休蔵・岸野雄三共著，近代日本学校体育史，日本図書センター，1983，pp. 359.
- 7) THOMAS, J. R. and NELSON, J. K., Introduction to Reserach in Health, Physical Education, Recreation, and Dance, Human Kinetics Publishers : Illinois, 1985. pp. 412.
- 8) 筑波大学附属中学校・高等学校百年史編集委員会編，筑波大学附属中学校・高等学校創立百年史，第一法規，1988. pp. 405.
- 9) 日本体育学会編著，体育学研究法，杏林書院，1957，pp. 468.
- 10) 前川峯雄・猪飼道夫・笠井恵雄・菅原 礼・藤田 厚・宮下充正編著，現代体育学研究法，大修館，1972，pp. 653.
- 11) 松田岩男・宇土正彦編，学校体育用語辞典，大修館，1988，pp. 396.
- 12) 向山貴仁，国立大学附属中学校保健体育科における体育指導研究の変遷（その1）1953～1989，筑波大学附属中学校研究紀要第43号 pp. 89-108，1991.
- 13) 向山貴仁，国立大学附属中学校保健体育科における研究の変遷（その2），東京体育学研究1992年度報告，pp. 75-91，1992.
- 14) 向山貴仁，国立大学附属中学校保健体育科における研究の変遷（その3），鹿屋体育大学学術研究紀要第13号 pp. 19-32，1995.
- 15) 向山貴仁，国立大学附属中学校保健体育科における研究の変遷（その4），体育・スポーツ史研究の展望－国際的成果と課題－ pp. 552-570，1996.
- 16) 文部省，中学校指導書保健体育科編，大日本図書，1990，pp. 126.
- 17) 生江義男他編，生江義男他編，教科教育百年史，建泉社，1985，pp. 1101.
- 18) 成田十次郎・前田幹夫編著，体育科教育学，ミネルヴァ書房，1987，pp. 255.